

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-262038

(43) 公開日 平成9年(1997)10月7日

(51) Int. Cl.⁶

A 0 1 K 27/00

識別記号

庁内整理番号

F I

A 0 1 K 27/00

技術表示箇所

A

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平8-110008

(22) 出願日 平成8年(1996)3月27日

(71) 出願人 595140479

中島 重雄

千葉県成田市美郷台1丁目8番4

(72) 発明者 中島 重雄

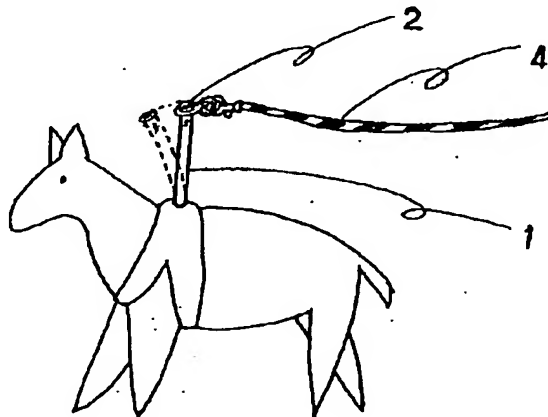
千葉県成田市美郷台1丁目8番4

(54) 【発明の名称】 ボール付き犬用首輪

(57) 【要約】

【目的】 この発明は、犬の首輪の上部にボールを垂直に付け、そのボールの先端に紐を取り付けることにより、紐の絡みつき、その他の諸問題を解決するために発明された、ボール付き犬用首輪である。

【構成】 犬の首輪の上部にボール1を付けてそのボール先端の紐取付具3に紐4を取り付ける。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 犬用首輪の上部に弾力性のあるボールを垂直にとりつけ、ボール上部に紐をとりつけるようにし、又、ボールの上部に傘をとりつけられるようにして、傘を付けている場合は紐を傘の先端にとりつけるようにした、ボール付き犬用首輪。

【発明の詳細な説明】

【0001】【発明の属する技術分野】本発明は犬用首輪の上部に弾力性のあるボール1を垂直にとり付け、そのボールの先端2に紐4をとり付けるようにした犬用首輪である。又、そのボールの先端には傘5をとり付けたり、外したり出来るようにし、傘の先端にも紐4を付けられるようにしたボール付き犬用首輪である。

【0002】【従来の技術】従来の犬用首輪は、首輪に直接紐が付けられていたために、犬の散歩や運動等のとき、紐が犬の頭や首や脚に絡みつき易かった。また、この従来の構造では紐の位置が地面に近かった為に、紐が地面に接して紐が痛み易く、汚れ易かっただけでなく、地面の水たまり等に接して紐が濡れて不快であった。又、犬が突然に走り出した時や、人が紐を急に引っ張ったりした時には、瞬間的に大きな力が、人の手首や腕にかかって、その部分を痛めたり、負傷することがあった。一方、犬の立場にたてば、犬の首への負担が大きかった。従来、雨天時用の効果的な犬用傘が無かったため、雨天には犬の体は雨に直接さらされたため、雨天時の犬の散歩後には必ず犬の体毛を洗ったり、乾燥したりといった作業を欠かすことが出来ず、この作業に大変な手間がかかっていた。このことは、室内で飼われる犬が多くなっている現状を考えると、大変に大きな負担であった。体毛の長い犬の場合は特に大変な作業であった。また、夏季の日射しの強い期間の犬の散歩では、その強い日射しに犬は直接さらされ、犬の健康面、衛生面の問題もあった。

【0003】【発明が解決しようとする課題】従来の犬用首輪ではこれ等の諸問題を解決することが出来なかったが、本発明は、これ等の諸問題を一起に解決するために発明されたものである。

【0004】【課題を解決するための手段】本発明は犬用首輪の上部にボール1を垂直に立て、さらにそのボールの先端2に傘5をとり付けるようにしたことにより問題点を解決する。いまその構成を説明すると、

(イ) 首輪の形態は、犬の首と前脚の付け根である胸の部分をベルトにより取り巻く型にする。こうすることで首輪上部のボール1が横向きや下向きになるのを防ぐことが出来る。

(ロ) 首輪の上部にボール1を立て、その先端の紐取付具3に紐4をとり付けられるようにする。

(ハ) ボール先端2の紐のとり付け具3は、ボール1を中心に水平方向に360度回転出来るようにする。こうすることで、犬はより自由な運動が出来るし、紐4を持

つ人の負担は軽減される。(図3)

(ニ) ボール1の先端には犬用傘の芯6が、差し込めるように穴を明けた構造にし、傘5を簡単に付けたり、外したり出来るようにする。

(ホ) ボール1及び傘の芯6は炭素繊維、グラスファイバーなどの弾力性があり、且つ、強度の得られる材質によって構成する。

【0005】【発明の実施の形態】本発明により、

(イ) 首輪上部にボール1があることにより、紐4と犬の頭や首や脚との距離が長くなるので、紐4が、犬の頭や首や脚に絡まりにくくなる。

(ロ) 首輪上部にボール1があることにより、紐4と地面との距離が、長くなるので、紐4は地面に接しにくくなり、紐4は汚れにくく、濡れにくく、痛みにくくなる。

(ハ) そのボール1に弾力性があることにより、犬が突然走り出した時でも、紐4を持っている人の腕や手首にかかる瞬間的な大きな力をボール1が吸収し、人の腕や手首にかかる負担を軽減出来るので、腕や手首を保護できるだけでなく、犬の首へかかる急激な力をやわらげ、犬の首も保護する。

(ニ) ボール先端2に犬用傘5を取り付けるようにした事により、犬が雨に濡れたり、汚れたりすることを防ぎ、犬の散歩後、体毛を洗う、乾かすといったわずらわしい作業を省くことができる。

(ホ) 傘の先端にも紐4を取り付けられるようにした事により、傘5、を取り付け使用する場合は、ボール先端2に付ける紐4を外し、この紐4を傘先端の紐取付具7に移して取り付ければよい。この場合のように傘の先端の紐取付具7に紐4を取り付けて使用する場合は、上記の犬の頭や首や脚への紐4が絡みつく問題、紐4が地面に接することによる紐4の汚れや傷みの問題、犬の突発的な運動によって起き易い人の腕や手首を痛めるといった諸問題に対しては、一層大きな効力を発揮することが出来る。

【0006】【実施例】紐4を傘の先端の紐取付具7に取り付けて使用の場合を考えると、構造上、傘の芯6の材質を強度が大きく、且つ軽くて、弾力性のある炭素繊維、グラスファイバー等を使用することにより、このボール付き首輪の効果、効用はより大きくなる。ボール1の長さや太さ、強度等は小型犬、中型犬、大型犬、また幼犬、成犬といった犬の大きさや、犬の種類等を考慮に入れて、ボール付き首輪のサイズを選択する。

【0007】【発明の効果】したがって、紐4の絡みつきを防ぎ、紐4の清潔を保ち傷みを防ぎ、人の腕や手首を保護し、犬をより清潔に保ち、体毛の手入れのわずらわしさから解放し、あるいは、作業負担の軽減をはかり、その前例の無い独走的な形状、外觀により、愛犬家の心を満足させることができる。

【図面の簡単な説明】

(3)

特開平9-262038

3

4

【図 1】 本発明の使用斜視図

【図 2】 本発明のうち、傘も使用中の斜視図

【図 3】 ボール先端の拡大図

【符号の説明】

1 ボール

2 ボール先端

3 ボール先端の紐取付具

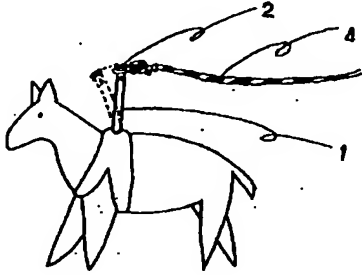
4 紐

5 傘

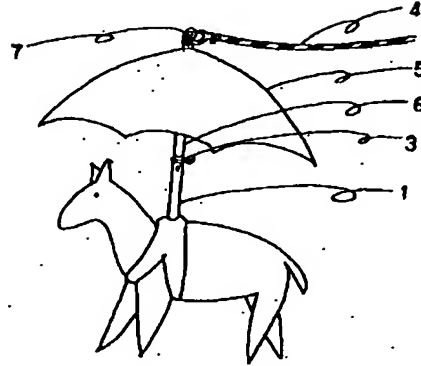
6 傘の芯

7 傘先端の紐取付具

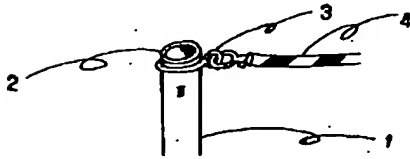
【図1】



【図2】



【図3】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.